



新改 秀作議員

平成の大合併は、期待と不安を抱えての船出となりました。それぞれ異なる歴史と伝統が交差する新町「さつま町」は、この数年間が一番大事な時期だと思います。この時期に、いかに基盤を作るかで、合併の意義が問われると思われれます。

行政・議会・民間のそれぞれの力を結集し、民間の良いところは取り入れ、常に前進する町でありたい。また、合併における過疎化が新たに発生しないように、町政が隔々まで行き渡り、住民一人ひとりの力と英知をもって、明日への夢と希望のある町であってほしい。



新改 幸一議員

いよいよ、新「さつま町」が発足いたしました。自立する新しい町づくりが期待される今日、地方分権という大きな流れを、宮之城・鶴田・薩摩の地域に住み暮らす人々と、一緒に手を取り合って、加速させていくことが重要と思われれます。

一人は万人のために、万人は一人のために、基幹産業第一の更なる農業の振興と、次世代を担う若者のため、日本一の「教育の町」として、町民一人ひとりが努力し、「融和」と「協働」で豊かな住みよい町となるよう期待いたします。



柳田 隆男議員

「さつま町」は、面積で三〇三平方キロ、人口約二万七千人の町になります。

これまでは、それぞれの自治体が、特色ある町づくりを進めてきましたが、三町は社会構造の面や産業・経済においても、似たような地域であることから、互助・互譲の精神での一体的な取り組みが必要で

特に少子・高齢化社会に対応できる社会づくりは喫緊の課題であり、地域拠点の特性を生かした小さくてもキラリと輝く町になって欲しい。「さつま町」の限らない発展を祈念いたします。



麥田 博稔議員

新町「さつま町」では、早期に行財政改革を行って、合併の効果を生み出そうという、強い改革意識が必要だと思えます。合併に対する、国や県からの財政支援が無くなった後の財政運営を視野に入れた取り組みが、重要な課題になります。身の丈に合った財政論議をして、農畜産業振興、

商工業振興、企業誘致に力を入れ、少子・高齢化社会への対応をすすべきだと思えます。そして、町民が「住んでよかった」と思える「人にやさしく、そして、快適な活力ある町」になってほしいと思えます。



田中 伸一議員

今度の合併は、国・県からの交付金の減少により、合併しなければ行政がやっていけなくなつたから、合併に追い込まれた。

一層の合理化を進めようとして、議員の定数を減らす、職員の数を減らす、補助金だけに頼らない、地域でできることは、自分たちでやる等の財政の厳しさを、議員・職員・町民が合併を機に、今までを考えを変えて、一層の合理化を進め、新しい「さつま町」が、三町の合併で良かったと言われるような町になるように、私たち一人ひとりが、がんばっていきましょ。